

平成21年3月18日

各位

会社名 ジャニス工業株式会社
代表者名 取締役社長 井上 光弘
(コード番号 5342 名証 第2部)
問合せ先 経営管理部長 富本 和伸
(電話 0569-35-3150)

「第2次中期経営計画」策定に関するお知らせ

当社はこのたび、平成24年3月期を最終年度とする「第2次中期経営計画」を策定いたしましたので、お知らせいたします。

記

1. 背景

当社は、平成14年6月に現社長が就任し、「破壊と再生」をスローガンに経営体質の一新を図り、平成16年10月からは平成19年3月までを対象期間とした「第1次中期経営計画」を策定し、財務体質の健全化と黒字を出せる体質への転換を図ってまいりました。

その間の主な施策としましては、平成15年6月に実施した希望退職、平成16年3月期における固定資産減損会計の早期適用、平成16年4月に決定した下水道用セラミックパイプ事業の撤退、平成16年6月の定時株主総会において承認をいただいた資本準備金の欠損てん補及び無償減資、平成19年3月に決定した景観材事業の撤退等でございます。

こういった一連の施策により、当期におきましては、昨今の厳しい市況環境の中ではありますが、第3四半期現時点の業績は営業利益、経常利益ならびに当期利益におきまして安定的に黒字を確保できるまでにいたしました。このように黒字体質への転換が図れたことから、今後はより「安定的な経営基盤の構築」をスローガンとし、平成21年4月から平成24年3月までを対象期間とした「第2次中期経営計画」を策定いたしました。

この「第2次中期経営計画」においては、「人にやさしい快適な生活環境づくりに貢献します」を経営理念とし、大手企業にはできない当社の強み・特長を最大限に活用し、戦略を実践してまいります。

2. 基本方針

- (1) 衛生機器単独事業での生き残りを目指し、小回りがきくメーカーの強みを生かし事業規模の安定化を図ります。
- (2) 商品においては、「フロントスリム」トイレ商品のラインナップ充実を図り、高付加価値商品を提供することにより、利益を確保し、安定的な黒字化を目指してまいります。
- (3) 遊休資産の売却等により、借入金の圧縮、財務体質の健全化ならびに復配を図ってまいります。

3. 業績目標

【平成24年3月期業績目標】（単位：百万円）

	24年3月期	ご参考：21年3月期予想
売上高	4,600	4,400
営業利益	130	100
経常利益	140	80
当期純利益	120	50

4. 各部門の主要施策

(1) 営業部門

【売上計画】（単位：百万円）

	21年3月期予想	22年3月期	23年3月期	24年3月期
売上高	4,400	4,100	4,400	4,600

【主な施策】

- ① マーケットの変化に即応できる営業体制を構築し、営業効率を向上する。
- ② 衛生陶器工場におけるOEM生産能力を拡大させ、対応力を向上させることで、大口OEM販売先の売上を増強するとともに、コラボレーションによる利益の拡大を推進する。
- ③ 「フロントスリム」トイレを中核とした中級・リフォーム商材に注力し、トイレ単品販売からトイレ空間販売に転換し、リフォーム市場へ参入する。

(2) 生産部門

【主な施策】

- ① 顧客ニーズを頂点としたJIT(ジャスト・イン・タイム)生産システムを更に推進し、より少ない在庫で受注対応できる生産体制を構築する。
- ② 従来から継続している全社横断のシェイプアップ活動(コストダウン)を強化し、製造原価を低減させるとともに、品番統廃合等により生産性を向上する。
- ③ 金具事業を中心に海外調達を強化し、より低コストな製品を供給する。また、海外調達先の販路活用も視野に入れた海外事業展開を推進する。

(3) 開発部門

【主な施策】

- ① 市場のニーズを捉え、エコロジー・デザイン・エコノミーとコンパクトをコンセプトとした商品を提供する。
- ② 他社開発とのコラボレーション、三次元CADの活用等により商品開発力を向上させる。
- ③ 安全で安心できる商品開発設計とアフターサービス体制の充実を図る。

(4) 全部門共通事項

【主な施策】

- ① 遊休資産の売却等により借入金を圧縮し、財務体質を健全化させることにより、復配を実施する。
- ② 総労務費は増やさず、正社員比率を向上させ、ノウハウの蓄積、生産性の向上を図る。
- ③ 内部統制、コンプライアンスを重視し、従業員が安全で安心して働ける職場環境の充実を図る。

以上